

令和5年度 中央区教育ミーティング 会議概要

開催日時	令和6年3月19日（火曜）午後2時から午後3時まで
会場	白山会館 胡蝶の間
出席者	中央区自治協議会委員:30名 教育委員:齋藤昭彦委員、畠山典子委員 事務局:学校支援課指導主事、中央公民館長、中央図書館長補佐、 中央区教育支援センター所長・指導主事・主任 中央区役所:区長 傍聴者2名 県議会議員1名、市議会議員1名 マスコミ0社
議事	1 開会
	2 説明（1）新潟市の中学生のための地域クラブ活動
司会	それでは本日のテーマに入ります。新潟市の中学生のための地域クラブ活動について、学校支援課から説明いただきます。
学校支援課	初めに、説明動画をご覧いただきたいと思います。 12月から1月にかけて、新潟市内の小学校5、6年生と中学生と小学生の保護者の方を対象に、地域クラブ活動のアンケートを行いました。その際に地域クラブ活動がどういうものなのか、なぜこのような地域移行という動きになっているのか、ということについて、ある程度の情報を提供しないと、わかりにくいところがありましたので、動画を作成しました。新潟市のホームページにも載せてあります。小学生にもわかるような言い回しになっておりまして、大人向けとしてはちょっと違うかもしれませんが、ご覧いただき、その後、私から簡単に補足説明をさせていただきたいと思います。
学校支援課	（動画視聴） それでは、私から補足説明です。 動画にもありました人口減は、中央区は市内で減り方が少ない区ではありますが、区によっては15年後半減するところもあります。その15年後、いよいよ半減して人数がままならないとなる前に、今から地域クラブ活動というものを準備していくということが国から示されています。小さい学校においては、部活の選択肢が少ないのが現状です。 新潟市も休日の地域移行を検討しはじめ、推進協議会で検討してきたのですが、休日だけ指導者や地域クラブに変えていくというところで、いろんな弊害が見えてきました。令和3年から、いくつかの団体に検証を行っていますが、部活動で教える顧問と地域クラブで教える指導者で、指導が違う、又はダブルスタンダードになってしまうということや、人数減によって団体の

活動が難しくなっていく、ということが話題になりました。そこで、新潟市として、部活動の大きな改革推進期間の中で、休日だけでなく平日も視野に入れた地域クラブ活動への移行、併せて教職員の勤務時間の管理に焦点を当てながら準備をしていこうという話になっています。また、実践検証では、それぞれの専門家の方たちが教えてくれるという環境ができ、さまざまな方法で運営がなされていく、中には協会連盟の方がチームを作って、そこに子どもたちが集まってくるケースもありますし、保護者会が立ち上がって、そこに指導者を呼んで子どもたちの活動の場をとという形態もあります。生徒からは、他校の生徒と一緒に活動して自分も励みになる、専門家に教えてもらって力がついた、大会に出場したい、技能の向上を自覚している、満足しているというような声が集まってきています。一方、レクリエーション的な活動をしたいという声もあります。保護者の方からは、専門家の方に教えもらうことで上達が目に見えていたりとか、本気になって練習を始めるようになった、地域の方との接点が増えて良い、地域の指導者から見ていただくことで、地域の方々が子どもたちの成長を実感でき、共有できて、とてもありがたいという回答をいただいております。反面、怪我への対応や指導者への謝金については検討していかなければいけないという声もあります。学校の先生からは、中学生は学校を跨ぐことがあるわけですので、生徒同士の会話の関わりが生まれてきている、先生たちも働き方改革になっている、教えたい方と教わりたいという子どもたちとの WIN-WIN の関係が出来上がっているのではないかとという声もあります。

これらの集計結果をもとに、令和8年度から、新潟市では平日16時45分以降と休日の部活動は行わない。そして、地域クラブ活動が充実していくために、場所をあけるという方向で検討しているところです。現段階では、部活動に所属している子どもが大勢いる状況ですが、令和8年4月を目途に、様々なクラブチーム、団体の活動を充実させていく、地域クラブ活動の充実を図っていくことを考えています。現在、様々な競技団体や文化芸術団体さんと一緒に実践検証してもらえないかという案内や市の補助事業をご紹介したりして、ご協力いただきたいとお願いしているところです。

中学生のための地域クラブ活動で、指導者や実施主体となる例として、大きく三つ考えております。一つ目が既存の団体に中学生の受け入れが可能かどうかを検討していただきます。二つ目は、中学生の受入れのため団体の新設の検討をしていただきます。各競技団体、各文化芸術団体の方から検討してみますという声もいただいております。三つ目は、教職員が関わり実施主体を作っていくということです。全県の中学校の教員を対象に行った令和4年のアンケート調査では、どの市町村でも約3割の先生が自分で子どもたちの競技や文化活動で指導に携わりたいと回答でした。そういった方々の力も借りながら団体を作っていくという方法もあるのではと考えています。

また、学校や施設を平日の午後5時から7時まで、休日は終日、ジュニア

	<p>専用枠という時間枠にして、中学生の活動する団体が使える仕組みを今準備しているところです。平日5時というのが難しいラインだということをいろいろな区でもお聞きするのですが、もちろん5時から活動が出来れば5時からスタートということになるのですが、5時から7時までというよりは、6時からスタートという団体があってもいいのかなと思っております。そういった場所と時間の調整を教育委員会で進めているところです。</p> <p>また、色々な団体の力を借りながら、というふうに考えております。団体規約を定めていただいたり、オンデマンド研修を受けていただくなどの簡単な条件を設定した上で、新潟市の団体リストに掲載していただける団体には立ち上げ補助の費用、指導者謝金の一部補助などの補助事業を検討、整備しているところです。併せて指導者リストも構築しようと準備しています。自分が持っているチームはないが、声がかかれば指導者として手を挙げることはできる、ということで協会や連盟の方から検討できますよという返事もいただいております。こういった方々と指導を希望する団体、こちらとのマッチングを図りながら、子どもたちの活動が保障されるように作っていきたいと思っています。</p> <p>これまでの部活動は、学校で週5日がスタンダードでしたが、これからは学校施設や公共施設で週1日や週5日というチームによって方針が違ふ、そういった様々な形に柔軟に対応できる中学生のための地域クラブ活動を構築していこうと考えているところです。もちろん部活動との違いも多々出てくると思います。そういったところもカバーしていく必要があると思います。</p> <p>団体リストに載ってもらえるように各チーム、各競技団体、各文化芸術団体をお願いしているところです。すでに私立高校で、中学生にも門戸を開いて指導するというケースも見えてきているところです。そういった多くの団体さんの協力をいただきながら、充実した団体リストを整えているところです。全員でタックを組んで新潟市総がかりで子どもたちを育てていく環境を作っていけたらと思っています。そのために皆さんの力も必要になってきていると思っています。よろしく願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。それでは質疑応答に入ります。</p>
<p>委員</p>	<p>有明台小学校区コミ協の渡辺と申します。説明ありがとうございました。非常に参考になりました。2点お伺いしたいことがあります。</p> <p>1点目、いろんな学校から生徒が集まると思いますが、その生徒が中体連を主催する競技大会に参加したいという場合、在学する学校名で参加が可能かどうか。2点目、その場合、部外指導者がその学校をまとめる、監督や講師で登録をせざるをえないのか。その辺いかがでございましょうか。</p>

<p>学校支援課</p>	<p>ご質問いただきありがとうございます。</p> <p>まず1つ目、いろんな学校から生徒たちが集まってくる場合の中体連の大会への参加の仕方ということですが、これまで中体連の大会ですと、学校の名前が一つセオリーでしたが、昨年から中体連では、少しずつクラブチームの参加を認めてきているところです。ただ、どの団体でも可能ではなく、種目ごとに、例えばライセンス何級以上の指導者が付いていれば良いという種目もありますし、県や市が認めた団体であれば良いというふうに決めている種目も中にあるようです。それぞれの種目ごとに細則があってその中でクラブチームとしての参加の条件をうたっているというふうに認識しています。今後、中体連がどのように大会を運営していくのかということになります。</p> <p>もう一点、指導者についても、全中の中で、それぞれの種目ごとに決まっていくのではと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>紫竹山校区コミ協の野澤です。部活から離れるということは教育活動の一環から離れるという認識でいいのでしょうか。8、9年位前に東区で中学校のサッカーの外部講師をやっていて実際に困ったことは、学校の先生からの情報提供がないことです。元気がないなという子について、学校の先生に聞いても詳しく教えてくれない。競技中、怪我に繋がることもあるので、情報提供を先生から外部の指導者にしていただきたいな、先生と指導者との連携を考えていただきたいです。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>ありがとうございます。まず、部活動は教育活動から離れるのかという、部活動の位置づけについてお話ししたいと思います。部活動は、今の学習指導要領には記載されていません。教育課程外のものになっております。ですので、全国的にいえるのですが、必ずしも学校で部活動をしなればいけないということではないという前提があることをお知りおきいただきたいと思います。</p> <p>次に、地域クラブの指導者と学校職員との間の情報共有についてですが、今後、部活が地域クラブに移行するにあたり、益々必要だと思えます。新潟市のホームページに、地域クラブ活動のページが出来上がったのですが、そちらにオンデマンド研修として、指導者になる方からはこういう点に気を付けていただきたいという内容を受講していただく仕組みを作っております。団体によって目指すところが違うと思えます。上を目指す団体はそれぞれ指導者の資格であったり、ライセンスであったり指導方法を学んでいくと思うのですが、その団体の指導者に受講していただければと思います。全ての団体に共通していることは、中学生を対象にした活動を行っているということをお聞きしていただきたいと思っています。オンデマンド講習でも生徒理解のこととか、コーチングの話に触れているのは、そういった観点で子どもたちを見てもらいたい、学校との連絡を密にさせていただきたいというあたりから</p>

<p>委員</p>	<p>の作りになっております。よろしくお願いいたします。</p> <p>説明ありがとうございました。最初、コミ協で全部やらなければならないかなと思っていたんです。鳥屋野中学校でこういう話しをしたときも我々でやらないと悪いのかな、説明伺ったら我々では出来ないと思いました。レクリエーションみたいなものだったら、公民館での活動に入ってもらったりとか出来ると思うのですが、本格的なものになると無理だなと感じました。</p> <p>それと、私、何年か前に新潟県バスケットボール協会監査役やったんですよ、何年間か、そのバスケットボール協会はどのようなものかといいますと、上はアルビレックスのようなクラブから下は小学校部活動の部員まで全部入っている団体です。そういう団体にある程度運営とかお願いしないと大会とか全中とか不可能でないかなと思ました。組織立てて、学校や地域がそれに協力するというような形にしないとコミ協では難しいなと感じました。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>委員さんおっしゃった中学生という年代のスポーツ、文化芸術への取り組み方をどう充実させるか、本当にそのとおりだと思います。子どもたちが小さい時から音楽文化芸術、いろんなスポーツや慣れ親しんで、13歳から15歳までがどんな活動に参加して、どんな大会に出られるのかということなのではと思っています。自分はどんなふうにそのスポーツに関わっていくのか、どんなふうに音楽文化芸術を極めていくのかと、3年間をどう構築してあげるかということが重要だというふうに私自身も感じています。</p> <p>鳥屋野中学校は規模が大きいので、今ある部活動をベースにクラブがはかれたらどうか動いてもらっています。実際に地域の指導者の方から入ってもらったり、中学生なので自分たちで運営もするんですね。そこに見守りが必要だということで、大勢の保護者の方からそれぞれの活動に見守りに入ってもらっている。そして子どもたちが主体的に自主的に運動プログラムを作って練習しているというような取り組みをしていると認識しています。</p> <p>レクリエーション活動がいいのか、また上を目指しているのか子どもたちによっても違ってくるでしょうし、子どもたちが選ぶ対象がそれによって変わってくるのかなと思っているところです。</p>
<p>委員</p>	<p>私はバスケットボール協会とかそういう組織のことを言っている。上部団体にしない限り、中学生対象の全国的な大会が運営できなくなるのではないかな。都道府県に各団体の協会があると思うのです。中学校からそういう協会へ主体を移すのがいいのではと思っています。そうすれば全国的な大会も可能になり、運営もできるのではないかな、そこに学校や我々地域が参加していくという形になれば良いのではという提案です。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>全国の大きな母体のところまではいかないですが、専門的な組織、協会の</p>

	<p>力を借りなければと感じております。情報提供しながら、それぞれの団体さんから要望があれば説明にあがらせていただいたり、傘下にあるチームなどにも私たちの方からお願いに入らせていただきたいと、頭出しをさせてもらっているところです。</p> <p>委員</p> <p>豊照地区コミュニティ協議会の鈴木と申します。柳都中学校では、地域移行を進めているところです。中体連の大会の参加について、競技種目によってはクラブでは参加できないという話があると聞きました。実際、去年、部活では弱いので地域クラブチームの方で強くなりたい、上の大会にいきたいという希望で移った子たちが結局部活チームでないと参加ができなかったという話を聞きました。地域クラブに移行したいというのであれば、やはり、子どもたち自身が強くなりたいという意思をもっている競技に対しては、大人がもっと誠意を持って真剣に取り組んで、全種目が中体連の大会に出られるという形で各団体さんへ話しを進めていっていただきたいと思います。</p> <p>委員</p> <p>鉄道・公共交通研究家の松川と申します。皆さんと別の観点から、通学は徒歩で良いのですが、今後、地域クラブ活動の場合、移動手段の確保をどのように考えておられるのか。中央区でしたらバスもJRもあるでしょうが、例えば南区ですと場所によっては1日1往復しかないところもあります。そうするとまず移動手段がない。スクールバスを活用するのか、デマンド交通を増やしてもらうのか、その辺を都市交通と至急協議して詰めて欲しい。中央区の移動手段があるところでも、金銭的負担が増えます。参加したくても出来ないという状況だけは起こして欲しくないので、学校支援課と都市交通で至急協議していただきたいと思います。費用負担なく参加できるように考えていただきたいと思います。これは要望です。よろしくお願いします。</p> <p>学校支援課</p> <p>ありがとうございました。まず中体連の件ですが、昨年そのようなことがあったと聞いております。中体連がどのような仕組みを作っていくのか、少しずつ参加のハードルが下がっているということも聞いておりますので、令和6年度、どのような動きで中体連が要望するか、注視しているところであります。</p> <p>移動手段についてですが、バスがあるか、運転手や費用面などの問題もあります。検討を続けていきたいと思っております。</p>
	<p>5 閉会</p>
<p>司会</p>	<p>皆様から貴重なご意見ご質問ありがとうございました。以上をもちまして中央区教育ミーティングを閉会いたします。ありがとうございました。</p>